研修名　発達支援リーダー研修　第５回　【支援編】
平成２７年１１月２６日（木）１５：００～１７：３０

講演「保護者との面接技術と保護者支援
・保護者を見る視点と上手な関わり方」

講師　馬見塚　珠生　氏

１　特性を理解するためにMSPAが有効

MSPAとは

発達障害用の要支援度評価スケール
診断名をもらっても、ひとりひとり異なり支援にはならない
特性を知ることが支援につながる。
メリット→何に困っているのかが明確になる
共有しやすい

２　グループワーク

事例をもとに、自分の園に来られていたらどのように関わるかを、グループに分かれて討議し発表

① 例１：4歳児、自閉症スペクトラム
・予定の変更があるとパニックになるので、事前に連絡をしてほしい等、保護者の要望が強い。園ではわからないことは尋ねパニックはない（自宅でパニックがある）
・お便り帳の返信がない。

・MSPA
・保護者の要因として考えられること
子どもから離れにくいのは、不安感から・・
以前にいやな思いをした経験があるのではないか
返信がないのは、文章を書くことが苦手なのではないか
・子の要因
転園や気候（暑さ）・行事（運動会）による負担があったのではないか
・対応
保護者の話を聞く
保護者に、園に様子を見に来てもらう
保護者に、園から子への関わり方を教わる
家庭・保護者・子のことを知る
時間をかけて信頼関係を築く

・先生より

メタ認知（感情に気づくこと）→気になる行動を起こしている背景や、しんどさを知る手がかりになる。

自閉症の子

人を頼ることができないことがある

保護者にも人を頼って助かるという経験が必要

子との関わり方について話を聞き、一緒に子育てしたいと伝えていく

②事例２：4 歳児

発達がゆっくり（言葉など）

・先生より

園を信頼されている＝保護者が一緒にやっていきたいのは園

以前に嫌な思いをしている人は怖いと思われることがある

次の関係機関へ繋げるときに

担任（園）が信頼している先生がいるので一緒に会おうと伝えてみる

子どもにとっては安心してのびのび過ごせることがプラスになる

３　まとめ

人を頼る・支援を受けようと思ってもらえることをチャンスととらえる

保護者の話をじっくり聞き、一緒に子育てをしていく

保護者の裏にあるしんどさに寄り添うことが子ども理解へと繋がる

安心・信頼をどうつくるか、保護者の視点に立つことが大切

４　感想

支援する上で特性を理解することにより、支援の方法が変わってくるためその視点を持っていることが必要だと感じました。

保護者支援をする上で園側が困っていることを考えてしまうことがあると思うが、保護者の視点から困っていることや行動の背景を理解することで保護者との関わり方も変わっていくのだと感じました。

（　記録　舞鶴市立西乳児保育所　荒田　明穂　）